

再評価結果（平成27年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：茅野 牧夫

事業名	近畿自動車道紀勢線 松原那智勝浦線 (田辺～すさみ)	事業区分	高速自動車国道	事業主体	国土交通省 近畿地方整備局	
起終点	自：和歌山県田辺市稲成 至：和歌山県西牟婁郡すさみ町江住	延長	38.0km			
事業概要						
<p>近畿自動車道紀勢線（以下「紀勢線」）は、大阪府松原市を起点とし、和歌山県和歌山市及び田辺市等を経由し、三重県多気郡多気町に至る延長約335kmの高規格幹線道路である。</p> <p>紀勢線（田辺～すさみ）は、京阪神と紀南地域を結ぶ高速ネットワークを形成し、災害時の交通確保、広域連携強化、地域の活性化等を目的に計画された高速自動車国道である。</p>						
H10年度、H15年度事業化	H8年度、H11年度都市計画決定（H-年度変更）	H17年度用地着手	H17年度工事着手			
全体事業費	約2,177億円	事業進捗率	59%	供用済延長	-	
計画交通量 10,800台/日						
費用対効果分析結果	B / C (事業全体)	1.02	総費用 (残事業)/(事業全体)	657/2,295億円	総便益 (残事業)/(事業全体)	2,351/2,351億円
	(残事業)	3.6	事業費 : 507/2,145億円 維持管理費 : 150/150億円	走行時間短縮便益 : 1,962/1,962億円 走行経費減少便益 : 271/271億円 交通事故減少便益 : 118/118億円	基準年 : 平成26年	
感度分析の結果						
【事業全体】 交通量 : B/C=0.8 ~ 1.2 (交通量 ±10%)		【残事業】 交通量 : B/C=2.9 ~ 4.3 (交通量 ±10%)		事業費 : B/C=1.00 ~ 1.05 (事業費 ±10%)		
事業費 : B/C=1.00 ~ 1.05 (事業費 ±10%)		事業費 : B/C=3.3 ~ 3.9 (事業費 ±10%)		事業期間 : B/C=1.02 ~ 1.02 (事業期間 ±20%)		
事業期間 : B/C=1.02 ~ 1.02 (事業期間 ±20%)		事業期間 : B/C=3.6 ~ 3.6 (事業期間 ±20%)				
事業の効果等						
<p>災害時の交通確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 南海トラフ地震等による被災時には、インターチェンジを介して緊急車両及び緊急物資などの迅速な輸送ができるため、迅速な道路啓開が期待される。 <p>地域間の連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 本路線の整備に伴い、救急医療機関、空港等の公共インフラへのアクセスが向上するため、地域間の連携強化、地域の利便性向上が期待される。 <p>高度医療施設へのアクセス向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 串本町～南和歌山医療センターの所要時間が短縮。(84分 56分) <p>主要観光地へのアクセス向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 沿線へのアクセス性向上により観光客の増加が見込まれる。 (白浜温泉、龍神温泉、中辺路、串本等:観光客入込数:6,920千人/年) <p>供用飛行場へのアクセス向上</p> <ul style="list-style-type: none"> すさみ町～南紀白浜空港の所要時間が短縮。(52分 27分) <p>日常活動圏の中心都市へのアクセス向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 田辺市～串本町の所要時間が短縮。(98分 69分) 						
関係する地方公共団体等の意見						
<p>地域から頂いた主な意見等:</p> <p>平成26年1月、高速自動車道紀南延長促進協議会(和歌山県知事、和歌山県副知事、和歌山県議会議長、沿線自治体首長、沿線自治体議長、和歌山県商工会連合会会長等)より早期整備の要望を受けている。</p> <p>和歌山県知事の意見:</p> <p>異常気象による災害や南海トラフの巨大地震などの大規模地震に備え、紀伊半島の海岸線を通る唯一の幹線道路である国道42号の代替え道路となる近畿自動車道紀勢線のミッシングリンク解消が急務であります。</p> <p>当事業は平成26年4月に国土交通省から平成27年国体開催までの供用が示されており、全線で工事が推進され、一部では完了しているため、対応方針(原案)のとおり事業継続が妥当と考えます。</p> <p>なお、事業実施にあたっては、より一層のコスト縮減等を図り、平成27年国体開催までに供用させるようお願いします。</p>						

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、「近畿自動車道紀勢線（田辺～すさみ）」の再評価は、当委員会に提出された資料、説明の範囲において、おおむね適切に進められており、対応方針(原案)のとおり「事業継続」でよいと判断される。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

南海トラフ巨大地震が今後30年以内に発生する確率は70%程度であり、沿岸部を通過する一般国道42号は津波により橋梁流出や路面崩壊などの道路被災が懸念。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成10年度、15年度に事業化、用地進捗率99%、事業進捗率59%（平成26年3月末時点）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

平成27年度：全線2車線開通予定

施設の構造や工法の変更等

事業実施にあたり、新技術・新工法の活用等によりコスト縮減に努める。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。